

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中で、利用者の方々、一人ひとりがその人らしく暮らし続けられるように、独自の理念を作成しているが、地域密着型サービスとしての理念に変更することができなかった。</p>	<p>○</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念に変更していきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念においては、玄関に掲示したり、はまぼうふう便りに載せるようにし、常に理念が目にはいるようにしている。理念をどのように実践していくかは、日々のカンファレンス、月1回の会議を通して、利用者のために何が出来るのかを、考え、実践している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念においては、玄関に掲示することで、理解していただけるようにしているし、年3回の家族会や2ヶ月ごとのはまぼうふう便りを通して、理念の浸透を図っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>常に誰でも気軽に立ち寄ってもらってもいいようにしているが、近くに家が少なく、また、目の前は9号線ということもあって、中々、隣近所との付き合いが難しい状況である。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>運営推進会議を通し、自治会長、民生委員の方より、地域の行事を教えていただき、4月には、自治総会へ出席し、地域の方に、お話をさせていただき、また、8月には、地域主催のイベントに参加し、地元の方達との交流に努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の草狩りや川掃除等においては、自治会長より、事前に教えていただき、デイサービスと協力し、お手伝いをするようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善部分においては、改善できる部分より改善してきている。自己評価においては、各ユニットにて、リーダーを中心に全職員で取り組み、理解できるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しており、前回の話し合い内容の振り返りをしながら、グループホームの取り組み状況の報告、及び、参加メンバーからの意見を聞き、サービス向上に活かしているし、去年同様、開催毎にテーマをもち、それに見合った方を呼ぶようにしているし、参加職員も管理者を含め、4名参加するようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型部会を市が3ヶ月に1回開催していただき、その話し合いの中で、他のグループホームの方々、市の方とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修があれば参加するようにし、学ぶ機会を設けるようにしているし、成年後見制度を活用している方も数名入居されているので、管理者から職員へ説明し、利用者の支援に支障がでないように努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年度に引き続き、年2回(4月、10月)、職員に虐待防止チェック表を用い、振り返りができるようにしている。また、6月に虐待、身体拘束に関して、勉強会を開催しているし、7月には、研修にも参加し、その内容も会議の中で、伝えている。常に、虐待が決まらないように、見過ごされることがないように、心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者および統括リーダーが必ず、説明し、契約に関する事柄を詳しく説明している。特に利用料金や退去に関する対応においては、より詳しく説明をおこない、同意を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の派遣が終了し、現状は、利用者が外部者へ伝える機会が昨年度より少なくなったが、介護実習生の受け入れを、積極的に設け、利用者とのコミュニケーションを通し、利用者の声を、教えてもらえるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当職員と統括リーダーおよび管理者が、利用者の1ヶ月の様子を写真付きでお知らせしている。また、2ヶ月に1度の便りを発行し、利用者の暮らしぶりをお知らせしているし、家族会の際には、職員の異動等においても報告している。また、金銭管理は月1回報告するようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年の12月に3回目の家族アンケート(無記名による)を実施し、回答、意見をいただき、その意見を職員全員で話し合ったり、家族会時に、フィードバックし、反映させているし、家族会時には、家族同士で話し合いをしていただく時間を設け、話し合い内容を教えていただけるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員誰もが、管理者へ意見や提案を開ける機会を設けているし、年2回は、個人面談をおこなっている。また、職員のみでおこなう毎日のカンファレンスを、月1回の棟会議にて、再確認にし、意見や提案を確認するようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者および統括リーダーは、通常のシフトになるべく入らず、柔軟な対応ができるようにしている。また、管理者と統括リーダーは極力、夜勤に入らず、緊急時の夜間対応の体制をとっている。	○ 1日を通し、職員が一人になる時間が19時から9時までであり、職員が不安になる時間が多いが、会社全体でこのような勤務帯を遂行しているため、現状では、このような形でしか対応できていない。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年度までは、基本的に、各棟の職員は固定していたが、本年度より、各棟の職員異動を実施し、9名の利用者ではなく、18名の利用者を支援できる視野を広げた職員作りを実施している。やむを得ない異動や離職においては、利用者、家族へ心配がでないよう、最善の努力をし、配慮するようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修においては、なるべく職員が参加できるように機会を設けている。また、4月より月1回デイサービスとの合同会議の中で、勉強会を設け、職員が勉強できる機会を設けるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度も、3ヶ月に1回、地域密着型部会が開催され、交流する機会を設けさせていただいているし、法人内のグループホームの話し合いを月1回設け、サービスの質の向上の取り組みをしている。さらに、昨年度は、管理者のみだったが、本年度から、職員も数名参加し、同業者との交流を設けている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回は職員一人ひとりに対し、面談時間を設け、話を聞くようにしているし、日常的にも、何かあれば、話を聞く機会を設けている。また、新しく入られた職員に関しては、毎月、面接をし、現状を確認するようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標管理シートにて、管理者と職員が一体になって、目標に向けて、達成できるように努めているし、資格取得には積極的に、支援できる環境作りに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居にあたっては、必ず、管理者、統括リーダー、職員が、入居前にご本人に会って、その時の要望は出来るだけ聞くようにし、答えられるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族がグループホームの入居に際して、求めているものを理解し、なるべく対応していけるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとして、ご本人とご家族が、グループホームに対し、どのような支援を求めているかを、見極め、話し合いをし、必要なものは持ってきていただいたり、他のサービス利用も含め、対応するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、必ず、ご家族及びケアマネジャーの方には、見学していただくように進め、ご本人が安心できる場所かどうかを感じていただくようにしているし、ご本人も見学できるように努めている。また、入居された日より、安心感を持っていただけるよう職員は、積極的に話をし、日々のカンファレンスにて情報共有をし、グループホームに早く馴染めるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1つ屋根の下で、暮らしているという思いを大事に、ご本人ができることは、ご本人にさせていただき、共に支えあえる関係作りができるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会時に、ご本人の状況を、ありのままに伝えたり、月々のご本人の1ヶ月の様子を写真と共に伝えて、ご本人と一緒に支えていくための協力関係を築けるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人、ご家族の思いや状況を見極め、外出や外泊の希望があれば、職員として、きちんと外出、外泊に向けて対応していけるようにしているし、家族会の定例開催に合わせて、ご本人とご家族との関係が途切れないように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具などを持ってきていただいたり、ご本人が大切にしてきた馴染みの人、場所が途切れないよう、支援するように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士で話ができる場や作業ができる場を提供したり、利用者同士では、関係がうまくいかない場合には、職員が調整役になって、支援するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームを退去されたあとも、町や病院で出会った際には、話をこちらからするようにし、関係を断ち切らない付き合いをするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のカンファレンスの中で、ご本人のことについて、話し合うようにし、希望や意向を把握するように努めているし、意思疎通が難しい場合には、ご家族からお話を聞くようにし、ご本人本位になるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの入居前情報から情報を得たり、ご本人やご家族からのお話の中で、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルチェックやレクリエーションなどを通じ、一人ひとりの日々の生活の現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりが自分らしく暮らせるように、計画作成担当者が担当職員および全職員へ確認し、ご本人の言動、ご家族の言葉を確認し、介護計画を作成するようにしている。	○	職員のみではなく、ご本人、ご家族が、話し合いの中に、参加できる環境作りを取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護計画に対し、モニタリングを実施し、確認するようにしているし、6ヶ月ごとに、必ず、介護計画を見直すようにしている。状態、状況が変化した場合、現状に即した介護計画となるよう見直しをするようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った記録となるように、日々の様子のみの記録から、項目別での記録ができるように、個別の記録を変更し、一人ひとりの介護計画において、必要な記録が残せるようにしているし、日々のカンファレンスで、決まったことをすぐに、個別の記録に反映できるように努めている。	○	介護計画に添った、一人ひとりに必要な支援が項目での記録で、明らかになることにより、もう一段階、ステップアップした個人の記録へ変更していきたいと思っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	5年目を向かえ、現在、入居されておられる方々の状況を考えると、ショートステイの認可を取得し、必要時、柔軟な支援をしていきたいと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の中で、民生委員の方には、毎回、参加していただくようにしているし、警察や消防においては、運営推進会議の中で、テーマにて、お呼びし、協働できるように努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスに月1回来ていただき、本人の意向をもとに、利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や地域密着型部会において、地域包括支援センターの職員の方が参加されるので、情報支援や協力関係も築けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前には、本人やご家族が、希望される、かかりつけ医となるように、事業所との相談により、すぐ対応できるよう支援している。はまぼうふうがかかりつけ医としている医院は、利用者の変化や健康面における心配事、緊急時には、その都度、相談できる関係を築いているようにしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門治療が必要な場合には、かかりつけ医の先生と相談し、ご家族の同意の上、ご本人が適切な病院にて、相談、治療を受けられるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	一人ひとりの健康状態を把握し、利用者の健康状態の変化時は、すぐに、看護職員に相談しながら支援できるようにしている。また、看護職員がお休みのときは、通所介護の看護師へ相談したり、訪問看護との契約に基づき、連携を取れる体制も整えている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院となる場合は、病院が作られる、入院診療計画書を拝見させていただき、入院によるダメージを極力防ぐよう、医師と話をする機会をもちさせていただいたり、事業所での対応可能な段階で、早期退院ができるように病院と連携、関係作りをしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族へは、入居時、家族会等において、事業所が現状、対応できる最大のケアについて、説明をおこなうようにしているし、急変時においては、急変時における確認書を用いて、状況変化に応じた対応をするようにしているし、話し合いを繰り返すようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族が、どこで終末期を迎えたいのか、家族へは、考えていただくようにしているし、事業所として「できること、できないこと」をきちんと家族へ伝えている。その上で、重度化や終末期の対応をチームで対応するようにしている。	○	急変によるケースは何度かあったが、終末期までというケースがないため、今後、チームで対応できるかわからないが、できる限り、住み慣れた場所で対応できるようにしていきたいと思っている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が、他の場所へ移られても、アセスメントやケアプラン、事業所での暮らしぶりやお部屋の配置等を情報交換し、住み替えによるダメージを最小限に防げるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが、利用者一人ひとりに対し、誇りや、プライバシーを傷つけないように、言葉かけには、特に注意をしながら対応している。さらに日々の関わりの中で、おかしな点があれば、管理者や統括リーダーから指摘をするようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者の方々に自己決定ができるような問いかけをしたり、ご本人からの日常生活においての思いや希望時には、すぐに支援できるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な、グループホームとしての1日の流れは、決まっているが、一人ひとりのペースを把握し、支援を心掛けているし、一人ひとりの希望に沿った支援をするようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりに朝起きた時に、洗顔タオルを渡し、身だしなみを整えていただくようにしているし、服装においては、本人と一緒に考えるように支援している。さらに、本人の希望があれば、毛染めやパーマをかけていただけるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の中で、食材の皮むきやテーブル拭きなど、利用者と共にこなせることはするようにしているし、食事の色合いを考え、また、食事中は、音楽を流し、職員と利用者が同じテーブルにて、ゆっくり楽しく食事できるようにしている。また、食後の食器の後片付けも一緒にするようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、利用者一人ひとりの嗜好物を把握するように努め、食事メニューに活かしたり、お茶の時間に、個別に提供するようにしている。また、季節によっては、いろいろなゼリーを作ることや、喉ごしの良いものを提供するようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間誘導や行動パターンにて声掛けをし、トイレにて排泄ができるように支援している。また、失敗があったとしても、本人が傷つかないよう、また、周囲にも気付かれないよう配慮をするようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの入浴に対する希望には、完全に浴うことはできていないが、入浴時間帯の中で、タイミングを見ながら、入浴をしていただけるように支援している。時間帯に置いては、職員配置上、今のところ、変更することは難しい。	○	夜間入浴において、今のところ、利用者に希望はないが、そのような時には、叶えるようにしていきたいと思っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく、日中においては活動を促し、生活リズムを整えるように支援し、夜間、安眠できるように支援しているし、和室にて、休息できるようにしている。仮に、夜間、寝付けない方がおられれば、一緒にお話をして、安心して、休めるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野や、過去の経験を引き出し、歌を歌ったり、洗濯物を干したり、ドライブや日光浴、掃除等を、日々の生活の中で、発揮してもらえるように、お願いし、していただいた時には、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者の方は、家族よりお金を預かり、事務所で管理させていただいているが、数名の入居者の方は、お小遣い程度は、お部屋で所持していただいている。また、利用者から、聞かれたときは、ありのままを伝え、安心していただけるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を把握し、家族の方に協力をしていただき、戸外へ外出できるように支援をしたり、天気の良い日や、本人の気分等に応じて、季節を肌で感じていただくために、計画を立てて、外出支援をしたり、その日、突発的にドライブ等を実行したり、施設の周りを散歩したりするように支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年の花見の企画において、初めて、家族にも参加していただき、公園へ、入居者全員、家族、職員で、出掛ける機会を持ち、また、9月には、近くの水族館へ2班に分かれて、外出支援を予定している。	○	来年度の春も、家族と共に、出掛けられる外出支援を計画していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が子機になったことにより、利用者から希望があれば、利用者が電話をかけられる、かけられない関わらず、利用できるように支援しているし、手紙も同様に希望があれば、支援するようにしているが、手紙においては、現状、やりとりしている人はいない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めておらず、ご家族が、いつの時間にも、訪ねられるようにしている。また、訪問時には、利用者のご家族等が、適切な場所にて、過ごせるように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年一度は、勉強会を開催し、(本年度は、6月に開催済み)身体拘束の具体的な行為を理解し、拘束はしない支援をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの様子を、職員一人ひとりが共に生活する中で、察知し、安全面に配慮しながら、日中は、玄関のカギをかけずに自由な暮らしを支援している。居室においても同様である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中においては、職員一人ひとりが、協力しながら、利用者一人ひとりの所在確認および様子を把握するようにしているし、夜間においては、数時間毎に巡視をし、利用者の様子を確認するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの状況に応じて、注意すべき物品を使うときは、一緒にし、側につくように配慮しているし、使い終わったら、元の位置へ返し、保管するようにしている。また、物品数も、確認するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの現状態から予想される危険においては、日々のカンファレンスにおいて、職員間で共有したり、過去のヒヤリハットや事故を思い出し、同じ事故を未然に防ぐように取り組んでいるし、仮に、ヒヤリハットや事故が起きた場合には、その日のうちに検証し、対策を立てるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	本年度、8月に急変、事故発生時の勉強会をDS合同会議の中で、実施している。また、マニュアルを作成しており、それをもとに、対応している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年の5月の運営推進会議の開催とともに、消防署の方に来ていただき、避難訓練を実施し、自治会長や地域包括支援センターの方々にも、夜間想定での、利用者の方々の避難誘導を見ていただき、アドバイスを受け、地域の人々からの協力を得られるようにしている。また、11月には、自主訓練をする予定としている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホームである以上、家庭と同じようなリスクが起きることは、家族へは説明しており、自由な暮らしを続けるための対応策を家族へ説明し、理解を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の状況を職員は把握するように努め、体調変化に気づいた際には、管理者、看護師等に報告している。状況によっては、医療受診をし、早期対応を心がけるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬箱を用意し、その薬箱に、現在、服用している薬の名前、作用目的を貼っており、確認できるようにしている。また、看護師が、日にち、時間、名前を、薬の袋、1つ、1つにつけて、確認できるようにしている。	○	職員一人ひとりが、利用者一人ひとりの服薬時間、服薬内容はわかってきているが、副作用などの理解においては、今後、勉強していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェック表、排便チェック表を作成し、確認をするようにしている。また、確認の中で、水分の少ない方に対しては、ゼリーなどの食べやすい物を提供したり、食事メニューの工夫をしたりしている。また、個人的に、ヨーグルトや牛乳を提供し、便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを実施し、一人ひとりにあった口腔ケアをしている。また、夕食後には、義歯を預かり、週2回は義歯洗浄をしている。また、何かあれば、協力歯科医に相談し、診てもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の中に、高血圧の方、糖尿病の方がおられるので、一人ひとりにあった、食事を提供しているし、基本的には、薄味を提供するようにしている。また、献立メニューを作成し、栄養バランスのとれた食事を提供している。水分量は、水分チェックをし、足りない方には、職員が側に付き、飲水をしてもらうように声掛けをしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年1度は、勉強会を実施しており、本年度も11月を予定としている。4月と10月は、薬剤を変更し、薬剤の耐性化としないようにしている。毎日の掃除は欠かさず、床掃除だけでなく、椅子や手すり等も、毎日、拭くようにしている。ペーパータオルも年中使用し、感染予防をしている。本年度は、新型インフルエンザの影響があるため、情報を早めにキャッチし、対応できるよう、勉強、準備はしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板、包丁においては、使用后、消毒をしている。また、献立メニューを作成するようになり、買い物時、必要な食材のみ購入するので、常に新鮮な食材を使用でき、古い食材が減っている。また、食中毒予防については、勉強会を5月に実施し、周知している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階と2階では、玄関が別があり、始めて来られた方は、迷われることがあるが、すぐに1階の職員が対応するようにしている。また、玄関には季節の花や置物を飾るように工夫をしている。2階は、外に出るのに、階段もしくはエレベーターを使用しないと、でれないため、利用者が外に出るときには、職員の付き添いをするようにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花を飾るようにし、季節を感じていただけるようにしたり、利用者の方が、落ち着いた音楽を流したり、リビングは、利用者の方が、季節を感じれる飾り付けをするようにしている。必要時には、リビングの配置を変更し、空間を分ける工夫もしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においては、一人ひとりのことを考え、常にテーブルの配置の見直しをしたり、工夫をしている。また、廊下やふとしたリビングのスペースに、ソファやテーブルを置いて、一人で過ごしていただいたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースも作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	随時、一人ひとりのご家族と相談しながら、使い慣れたものや、居心地よく過ごしていただけるように担当者を中心に工夫をしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えを定期的に行っており、気になることは、話し合いをするようにしている。また、トイレは、換気扇と消臭剤にて工夫をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能にあわせて、なるべく自立した生活が送れるように、居住環境を常に職員全体で話し合い見直すようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	環境整備をする上で、トイレには、「便所」と貼ったり、各居室には、表札と名前が書かれた紙を貼っている。また、各椅子には、それぞれ違う座布団をし、わかる工夫をしている。何かあれば、話し合いをし、不安材料を最小限にできるように工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースを設け、利用者が日常的に楽しみをもてるようにしているが、2階であるため、1階に行くには、職員が付き添いをしないといけないため、2階のベランダにプランターにて花や苗を植え、楽しみをもてるように工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員同士のコミュニケーションを大事に、日々のカンファレンスをする時間を作るようにし、職員同士が意見を言い合える環境を実施していること。
- また、職員一人ひとりが役割を持ち、日々の実践の中で、取り組みをしていること。
- ・常に笑顔とやさしさを持って、職員一人ひとりが支援をしていること。